



説教要旨「約束の虹」

創世記 9章 8～17節

人間が愛し合うことが出来ずに、お互いに憎み合い、争い、生命を奪い合うような生き方ばかりをしていることに心を痛め、人間を創造したことを後悔した神さまは、地上に大雨を降らせ、洪水を起こして、世界をリセットすることにしました。40日40夜降り続いた雨は、ノアの箱舟に乗った生き物以外のすべてを地上から洗い流しました。水が地上からひいた後、神さまはノアと契約を結び、これからはどんなに人間が悪い思いを抱く存在であったとしても、二度と滅ぼすことはないとの約束されたのです。その平和のしるしとして神さまが雲の中に置かれたのが虹です。

けれども神様は、人間の罪がきれいさっぱり洗い流されてきれいな心の人間ばかりになったから、この約束をしてくださったのではありません。このノアの箱舟の物語は、悪い人間がいなくなって理想の世界が訪れてめでたしめでたし…ではないのです。

創世記8章21節で、神様はこのようにつぶやいています。「人が心に思うことは幼いときから悪いのだ」

罪人である自分が、それでも救いに入れられていると知らされ受け入れることが、洗礼を受けてクリスチャンになるということです。そもそも、神様の目には、なんの罪もない人間など一人もいないのです。それこそ、「人が心に思うことは幼いときから悪い」のです。

罪ある人間を、この世もろとも滅ぼすこと。それは、一時的な問題解決にはなるでしょう。しかし、神様はもはやそのようなことはしないと約束してくださいました。けれどもそれは、この世の悪を放置するというものではありません。神様は罪にまみれたこの世界を滅ぼすかわりに、独り子イエス・キリストをこの地上に遣わされ、十字架上の死へと歩ませられたのです。

イエス様は、十字架の上で、自分を十字架につけた、人々のために、祈られました。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」(ルカ 23:34)。わたしたちはこの祈りによって罪を許され、神様の御前に立つことができるのです。

(2022・10・30 説教者：稲垣真実)